村山槐多の小説「事実乎小説乎殺人行者」、挿絵三点

●出典

村山槐多「事実乎小説乎殺人行者」（『武侠世界』第四巻第五号、武侠世界社、一九一五年四月一日、四五～五五頁、表題は目次では「事実か小説か殺人行者」になっている）

●槐多の挿絵の寸法

四七頁　一二・二〇×六・七〇センチメートル

四九頁　八・八〇×八・八五センチメートル

五三頁　一三・七〇×一二・三〇センチメートル

●解説

『武侠世界』第四巻第五号に掲載された村山槐多の小説「事実乎小説乎殺人行者」とその挿絵三点である。小説の原稿と挿絵の原画が現存するのかどうかは不明である。したがって、同誌掲載のテクストが槐多の原稿にどれだけ近いものであるのかは分からない。槐多の山本一郎氏宛の書簡の中に、この小説に言及していると思われる箇所がある。（註一）

さて四月号の武侠世界に僕の書いた小説が採用されこの月末には十円原稿料が貰へる事になりました、

小杉さんはそれで信州へ一月ばかり行つて来いと云はれます僕も一年振りで信州の山景を見おぢ（ママ）さんにも会ひたいと思ひます．四月一杯そつちへ参つてもかまひませんでしやう（ママ）か

お伺ひ申し上ます（ママ）、

もしいゝ様なら四月一日に出発友人の笠原二郎君と妙義山を見物しそれから私だけ大屋へ参ります、

（殊（ママ）に依れば笠原君も二三日お世話になるかも知れません）

小杉さんは今東海道旅行中で月末におかへりになるのです、

以上お伺ひ申上ます（ママ）、

小説のテクストは他のテクストとの間に異同があるが、それについては別の PDF にまとめたので、そちらを参照されたい。

この小説の中で、野宮光太郎たちが住む隠れ家として洞穴が出てくることには、一九一五（大正四）年に小説が発表される前年の一九一四（大正三）年に槐多が参加した旅行における足尾の坑内での体験が影響している可能性があるかもしれない。[註二] 事実、槐多はその旅行の感想文に足尾の坑内が一番面白かったと書いており、[註三] そこでの体験は彼の心に強い印象を残したようである。ただし、小説においては、野宮の隠れ家があるのは「信濃」[註四] ということになっているので、実際に影響関係があるのかどうかは定かでない。

四五頁の挿絵にはサインがないので誰が描いたのかは不明だが、[註五] 四七・四九・五三頁の挿絵には「Kaita」というサインが入っているので、槐多の作だと分かる。四七頁の挿絵は、戸田元吉が別荘の近辺の山を歩いているところを表したものだろう。四九頁の挿絵は野宮光太郎が住む隠れ家が舞台で、手前にいるのが戸田元吉、奥に座っているのが野宮、その後ろに立っているのが彼の手下だと思われる。五三頁の挿絵は、短刀を持っているのが戸田元吉、灯を頭上に差し上げているのが野宮光太郎、彼らの後ろに倒れているのが元吉の妻の豊子だろう。

執筆者・発行者　植田智晴

二〇一三年九月一五日　初稿発行

二〇一三年一〇月一三日　第二稿発行

二〇二三年一二月一七日　第三稿発行

© UEDA Tomoharu 2013-2023

このPDFの無断での転載、複製などは禁止とさせていただきます。